

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.221

2011年10月

防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」を開催



目次

●ニュース

- 防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」を開催 3
- RU11シンポジウム「東日本大震災：大学の責務と貢献を考える」を開催 4
- 赤崎 勇特別教授がエジソン賞を受賞 5
- 第72回防災アカデミーを開催 5

●知の先端

- 烏骨鶏 5本指の謎解明 6
- 鈴木 孝幸（大学院理学研究科助教）

●学生の元気

- 大学生の私たちにできること 8
- 岩崎 慶太（法学部3年）

●部局ニュース

- テクノ・フェア名大2011を開催 9
- 第12回国際研究集会を開催 10
- 国際学生会議（経済・経営分野）及び工場見学会を開催 10
- 第2回医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウムを開催 11
- 平成23年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催 11
- ICCAE 第4回オープンセミナーを開催 12
- 世界化学年2011 特別企画 マリー・キュリーポスター展を開催 12
- 平成23年度目録システム地域講習会を実施 13
- アフガニスタン写真展を開催 13
- ミクロの探検隊を開催 14
- 第2回地球教室「砂の中から宝石をさがそう！」を開催 14
- 第15回博物館特別展「深海の生物と古生物－知多の化石から生きているウミユリまで－」を開催 15

●新任部局長等の紹介

- 受賞者一覧 16

- 本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年8月16日～9月15日 19

●附属図書館からのお知らせ

- 附属図書館2011年秋季特別展「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」を開催中 22

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史

- 第9代総長 はやかわさちお 早川幸男 一名大をひきいた人びと⑭ 28

「防災・減災シンポジウム 東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」を開催





1 トークセッションに参加する
勝見副会長
2 トークセッションの様子
3 講演する石川病院長

防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」が、9月3日(土)、豊田講堂において、日本赤十字社愛知県支部の特別協力を得て、朝日新聞社との共催により開催されました。台風12号の接近による悪天候にもかかわらず、一般の方々を中心に、午前の部には299名、午後の部には350名を超える参加者が来場しました。

午前の部は「災害医療の最前線～大震災から命を守る～」というテーマで実施されました。冒頭の開会あいさつでは、濱口総長から、災害対策本部の設置や、被災地への物資提供、人材派遣など、東日本大震災という未曾有の大災害を受けて、本学がどのような対応をしてきたのか、スライドを用いて説明がありました。

引き続き、石川 清名古屋第二赤十字病院病院長から「災害医療～大災害から学んだ教訓～」と題した講演があり、尾崎紀夫医学部附属病院精神科教授からは「こころの痛みを癒す－災害とこころ・脳」、愛知県薬剤師会の山口一丸氏からは「震災に負けない、医療をつなぐお薬手帳」、大野和美愛知県医師会副会長からは「東日本大震災における愛知県医師会の医療救護活動」をテーマに、それぞれ活動報告がありました。



その後、「経験から学ぶ災害時医療と一人ひとりの心構え」をテーマに、松尾医学部附属病院長をコーディネータとし、石川病院長、大野副会長、勝見章男愛知県薬剤師会副会長、亀島加代医学部附属病院看護部看護師長の4名のパネリストによるトークセッションが行われました。医師、看護師、薬剤師それぞれの立場からの心構えや、とるべき行動などを討論しました。

休憩を挟み、午後の部は「地域連携～地域の絆がひととまちを守る～」をテーマに開催され、鈴木康宏環境学研究科教授の開会あいさつの後、栗田暢之 NPO 法人レスキューストックヤード代表理事から「足湯ボランティア～つぶやきで綴る被災地の現状～」、俳優の伊勢谷友介株式会社リバースプロジェクト代表から「SNSを活用した即効力支援から、中長期的な支援『元気玉』へのシフト」と題し

た活動報告がありました。

続いて、「被災地に学ぶ地域連携のあり方」をテーマに、福和伸夫環境学研究科教授をコーディネータとし、栗田代表理事、伊勢谷代表、神島清司トヨタ自動車株式会社総務部総務室長、伊藤智章朝日新聞社宮古支局長の4名のパネリストによるトークセッションが行われました。長崎 弘名古屋市消防局防災・危機管理監もパネリストとして参加することになっていましたが、台風12号の接近に伴う出勤に備えるため、欠席しました。

災害対策においては、産官学民、地域間、分野間、家庭内、世代間など様々な「連携」を強化し、災害を自分自身の問題と捉え、人任せにしないことが肝要です。参加者は、災害医療と地域連携について考えることで、災害に備える意識をさらに高めるきっかけを得たようでした。

RU11シンポジウム「東日本大震災：大学の責務と貢献を考える」を開催



開会あいさつをする渡辺副総長

RU11シンポジウム「東日本大震災：大学の責務と貢献を考える」が、9月11日(日)、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて開催されました。

主催団体である学術研究懇談会(RU11)は、研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムとして、11大学(北海道大、東北大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、京都大、大阪大、九州大、筑波大、東京工業大、本学)で構成されています。

今回のシンポジウムは、科学や技術へのある種の不信感など、大学における教育研究のあり方に対して多くの問題を提起することにもなった東日本大震災を振り返り、今後の学術のあり方や日本の復興に貢献する大学の姿を議論するために企画され、本学からは、濱口総長、渡辺副総長、大井貴史工学研究科教授が登壇しました。

当日は、まず渡辺副総長による開会あいさつがあり、震災直後から今日までの多くの人々による様々な形での支援を例に挙げた上で、大学という教育研究機関やその関係者が、復興の段階に応じて果たすべき役割について、いろいろな角度から議論することで、このシンポジウムの目的は達成できると述べました。

続いて、小野元之日本学術振興会理事長より来賓あいさつがあり、第1部として「第一線の研究者からの発信」と題し各大学から選ばれた研究者による講演があり、大井教授は「真のエリートの育成・確かな個の確立・震災の経験を忘れない」をテーマに講演を行いました。



パネルディスカッションで発言する総長

第2部では、「大学は何をすべきか」をテーマにパネルディスカッションが行われ、総長は、松本洋一郎東京大学理事・副学長、松本 紘京都大学総長と共にパネリストとして登壇し、人口減少と災害の問題、過去の大震災等の経験を活かせなかったことの反省、情報公開や説明責任の必要性等を訴えました。

その後、聴衆と登壇者の間で、今回の震災について予測できなかったことから得られる反省は何か、自然エネルギーの問題や環境問題をどう考えるか、国際的にどう発信していくのかなどについて活発な質疑応答も行われました。また、鈴木 寛前文部科学副大臣も飛び入りで参加するなど、シンポジウムは大学関係者、一般の方々が「学」の責務を考える良い機会となりました。

赤崎 勇特別教授がエジソン賞を受賞

赤崎 勇本学特別教授が、8月20日(土)、米 サンフランシスコのマリオットホテルで開催された米国電気電子協会 (IEEE: The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.) の栄誉賞授賞式において2011年エジソン賞を受賞 (単独受賞) しました。

IEEE は、1884年に発足したアメリカ電気工学者協会



受賞のスピーチをする赤崎特別教授

(AIEE) と1912年に発足したラジオ工学者協会 (IRE) が1963年に統合した協会、160カ国に渡り40万人の会員を擁する世界最大の学会です。

授賞理由は、「窒化物半導体とそれを用いた可視発光ダイオード、レーザなどの光電子デバイスに関する独創的かつ開拓的貢献」です。

エジソン賞は、発明王エジソンの業績をたたえ1909年に創設された賞で、電気電子分野の材料やデバイス研究開発の草分けと認められる人に贈られるものです。該当者なしの年もあるほど、厳しい人選が行われる賞です。日本人としては2人目の受賞です。

第72回防災アカデミーを開催

第72回防災アカデミーが、9月13日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

今回は、西澤邦秀本学名誉教授が「東電原発事故による環境汚染が地域住民に及ぼしている影響-衣・食・住・被爆・健康、法規制-」と題し講演を行いました。

西澤名誉教授は、放射線の安全管理や人体への影響を専



会場の様子

門とし、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故に関しては、放出された放射性元素による環境汚染について調査研究し、対応策を提言しています。そのために、日本放射線安全管理学会で全国の研究機関に呼びかけ、放射性ヨウ素・セシウム安全対策アドホック委員会を組織しています。

講演ではまず、放射線と放射能の基本的な説明があり、ベクレル、グレイ、シーベルトなどの単位の意味、放射線の人体への影響、被爆限度や飲食物摂取の基準値等をわかりやすく解説し、さらには、福島第一原子力発電所から放出されたヨウ素131とセシウム137の量は、広島市に原子爆弾が投下された際に放出された量よりはるかに多いことを指摘しました。

また、同委員会の活動について、組織の段階で信頼できる専門家を集めるようにしていること、試料の入手や研究者への配送などに気を配って正確な分析に力を注いでいることなどについて述べ、その経験から得られた具体的かつ詳細な除染の方法や効果の分析などを説明しました。

会場は121名の参加者で満員となり、講演後の活発な質疑もあり盛況のうちに終了しました。

烏骨鶏 5本指の謎解明

鈴木 孝幸 大学院理学研究科助教

烏骨鶏は、不老不死の食材として歴代の中国の皇帝に珍重された霊鳥です。明の時代までは、特に滋養強壯の薬として王侯や貴族のみが食べることが出来た薬鳥でした。日本には江戸時代に中国から渡来されたと言われており、昭和17年には天然記念物に指定されています。最近では、体力強化のみならず高血圧、糖尿病、冷え性、更年期障害、老化の予防等にも効果があると言われていています。しかしながら烏骨鶏は飼育が難しいことから今でも薬膳料理や漢方薬の貴重な材料となっています。

烏骨鶏は“烏（カラス）”の名前が付くように、皮膚や骨、内臓に至るまで全身黒色の珍しいニワトリです。この他にも絹糸の様なふさふさの羽毛を持っており、足の指も他の鳥類が4本指であるのに対し、5本（多指）あるなど独特の特徴があります（図1）。

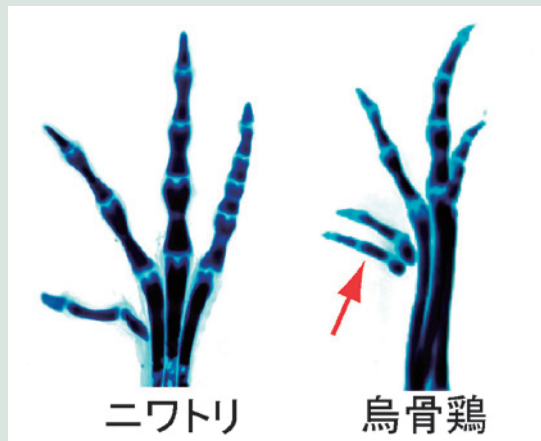


図1 ニワトリと烏骨鶏の指の比較
ニワトリ（左）と烏骨鶏（右）の後肢をビクトリアブルー染色して軟骨の形を見たもの。烏骨鶏は赤矢印の部分に親指が1本多く出来ていることが分かる。

これまで私たちはニワトリ胚をモデル動物として用い、手足の発生メカニズムの研究を行ってきました。今回私たちは、この烏骨鶏の指が多指になることに注目し、烏骨鶏独自の形態を生み出すメカニズムを解明しました。

私たちヒトは親指から小指にかけて5本の指を持っています。指の本数は胎児期に小指側にソニックヘッジホッグ（SHH）と言われる分泌性のタンパク質が発現し、親指側に拡散することで、ヒトでは確実に5本の指が作られる様に決まっています。私たちは烏骨鶏の卵を孵卵させて手足が形成される様子を解析しました。その結果、烏骨鶏は通常小指側にしか発現しないSHHタンパク質が、親指側にも発現していることが分かりました（図2A）。そのため、正常な状態よりSHHタンパク質の作用する量が多くなった結果、烏骨鶏は5本の指（多指）になることが分かりました。次に、何故親指側にもSHHタンパク質が発現してしまうのかメカニズムを明らかにする為に、烏骨鶏のゲノムを単離してシークエンス解析によりShh遺伝子上流に存在する遺伝子の発現調節領域を調べました。すると正常なニワトリの塩基配列と比較して1塩基だけ変異があることを発見しました（図2B）。烏骨鶏が持つこの領域を通常のニワトリ胚に電気穿孔法という方法を用いて遺伝子導入した結果、正常なニワトリ胚でもShhの発現が親指側で誘導されることが分かりました（図2C）。烏骨鶏はShh遺伝子の配列自体は正常であるにも関わらず、この遺伝子の発現を調節している領域に変異があったため、これまで多指になるメカニズムの解明が難しかったのだと考えられます。生物の進化の過程では、遺伝子自体の配

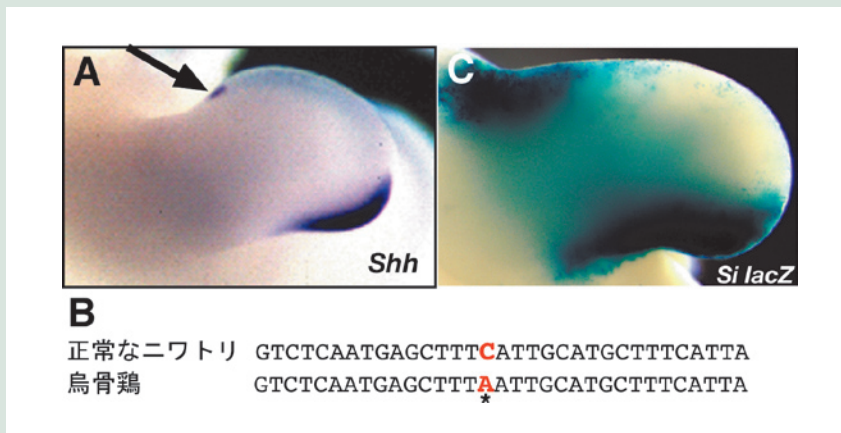


図2 烏骨鶏における遺伝子の変異場所の特定
 (A) 烏骨鶏胚で Shh 遺伝子の発現 (紫色で示した部分) を調べた結果、親指が出来る前側 (黒矢印) に異所的な Shh 遺伝子の発現が見られた。(B) Shh 遺伝子の発現調節領域を調べた結果 C から A への遺伝子の変異を発見した。(C) 烏骨鶏の発現調節領域を正常なニワトリ胚に遺伝子導入した結果、前側にも Shh 遺伝子の発現 (青色で示した部分) が観察された。

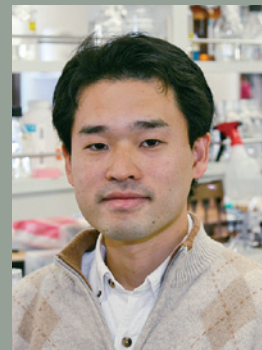
列に変化が起こることもありますが、今回の烏骨鶏の様に既存の遺伝子の発現領域を変化させることで形態が劇的に変わることがあります。これらの結果から、烏骨鶏ではたった1個の遺伝子配列の違いで親指側にも SHH が異所的に誘導されることにより、通常のニワトリより多く指が作られるシグナルが入り、5本の指を持つ様になったことが分かりました。

今回、霊鳥烏骨鶏が持つ独特な形態的特徴の謎を解明することに初めて成功しました。ヒトでも親指を2本持って生まれて来る、いわゆる多指症の赤ちゃんがいます。今回発見した遺伝子の変異した領域を、多指症の赤ちゃんの遺伝子配列と比較した結果、烏骨鶏は実は全く同じメカニズムで多指になっていたことも分かりました。このこと

は、烏骨鶏はニワトリの遺伝子に変異が起こり、多指症になってしまった生物であるとも言えます。このように本研究の成果は、今後烏骨鶏の卵を用いた多指症などの遺伝子疾患の原因解明にもつながると期待しています。

1999年 慶應義塾大学工学部応用化学科卒業
 2004年 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
 細胞生物学専攻修了 博士 (バイオサイエンス)
 2004年 米国ウィスコンシン大学解剖学分野 ポスドク
 2007年 東北大学加齢医学研究所 助教
 2008年 科学技術振興機構さきかけ研究者 (兼任)
 2010年より現職
 モットー: "研究はディスカッションする時などは、学生も含めて
 everyone is equal です"
 ひとこと: 生物学における新しい基本原理を見つける研究をしたい
 と思っています。
 趣味: 海釣り、バス釣り、フライフィッシング

すずき たかゆき



法学部3年
岩崎 慶太

大学生の私たちにできること



音舞の演目 三崎のぶちあわせ太鼓

東日本大震災から半年後の9月11日(日)、豊田講堂において、名古屋大学文化サークル連盟に所属する、民族舞踊団音舞、吹奏楽団、JP-actの三団体で東北地方復興支援チャリティーコンサートを行いました。コンサートには200人近くの方にお越しいただき、142,991円もの募金が集まりました。

震災発生当初は毎日のように津波や避難所の様子が報道され、多くの人がそれを見て心を痛め、自分に何ができるのだろうかと考えていたと思います。しかし日が経つにつれ震災について考えることが少なくなり、駅前で募金活動をしているのを見かけても通り過ぎていた自分たちがいることに気が付きました。そこで、震災の半年後にコンサートと写真展を行うことで、私たちのサークルのメンバーや、来ていただいた方に当時の気持

ちを思い出してもらい、今一度震災について考えるきっかけにしたいと思いこのコンサートを企画しました。写真展は中日新聞社に協力していただき、震災発生時の新聞記事を中心に展示しました。

私たちは大学生ですので、直接現地へ行ってボランティアをするという貢献の仕方があるかもしれませんが、しかしそうではなく、私たち3サークルが大学生活を通して取り組んできた「音楽の力」を通して被災した方々の力になりたかったのです。

集まったお金は東日本大震災義援金として、中日新聞社会事業団に寄付させていただきました。このコンサートが皆様にとって、もう一度震災について考えるきっかけになっていれば嬉しく思います。



中日新聞社会事業団にて寄付の記念写真

いわさき けいた
1991年2月27日生まれ
三重県出身

テクノ・フェア名大2011を開催

●大学院工学研究科



講演する天野教授

大学院工学研究科は、9月2日(金)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて、大学院環境学研究科、情報科学研究科、医学系研究科及びエコトピア科学研究所の共催のもと、テクノ・フェア名大2011「名大もの作り最前線－創造から技術へ－」を開催しました。

同行事は、講演会、大学にある技術シーズ(種)及び研究成果のブース展示、研究室公開等を通じて、産学官連携や地域産業の更なる活性化を促し、さらに大学の最新の研究成果を産業界や地域社会に広く情報発信することを目的として毎年開催しているものです。12回目となる今回は、政府・自治体関係者、中部地区の経済界及び企業の研究開発担当者等約1,100名の来場がありました。

午前中の講演会では、主催者を代表して鈴置工学研究科長からあいさつがあった後、齋藤永宏グリーンモビリティ連携研究センター教授から「悪魔の表面から天使の表面へ：表面技術」、天野 浩工学研究科教授から「世界を照らすLED」と題した基調講演が行われ、聴講者は熱心に聞き入りました。

続けて、2カ所の会場に分かれ、23の研究シーズ・研究



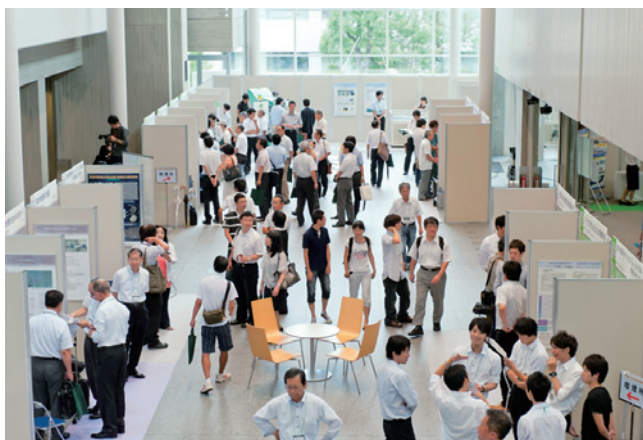
会場の様子

成果について、出展担当教員が出展内容や研究を紹介するミニ講演が実施され、聴講者は延べ約1,050名となりました。今年度は、国民との科学・技術対話の推進が求められる「最先端・次世代研究開発支援プログラム」と、3月に整備されたグリーンビークル材料研究開発拠点について、それぞれ5名の講師が特別枠として連続で講演を行いました。各ミニ講演では活発な質疑応答が繰り広げられ、熱心にメモをとる聴講者の姿が見受けられました。

また、ブース展示会場では、企業の研究開発担当者等が多数詰めかけ、各ブースの担当者による研究成果の説明や実用化に向けての相談、意見交換等が活発に行われるなど、企業側が同フェアに対して高い関心と大きな期待を寄せていることが窺えました。

午後から並行して行われた研究室見学には、延べ120名の参加があり、教員や大学院生の説明に聞き入っていました。

会場に設置された「技術相談・共同研究等受付コーナー」では、産学官連携推進本部所属の産学官連携コーディネータが、企業からの技術相談を途切れることなく受けていました。



ブース展示会場の様子



研究室見学の様子

第12回国際研究集会を開催

●グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」

グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」は、9月1日(木)、2日(金)の2日間、野依記念学術交流館において、第12回国際研究集会を開催しました。

「歴史におけるテキスト布置」をテーマとした今回は、海外からミシェル・ソー パリ・ソルボンヌ大学教授、イヴ・



あいさつする佐藤特任教授

サシエ同大学教授、フランソワ・ブガール パリ西大学教授、シュテファン・エスダース ベルリン自由大学教授を招へいし、ヘルムート・ライミッツ プリンストン大学助教に研究発表原稿の代読という形での参加を得ました。

研究集会では、拠点リーダーである佐藤彰一文学研究科特任教授の開会のあいさつに続き、主にヨーロッパ中世の歴史記録を対象とする10の研究発表が行われました。聖遺物奉遷記、司教事績録、歴史叙述抜粋集、政治神学の論考、教皇の書簡、国王証書や法典や勅令、私文書や地代リストや証書集など多岐にわたる記録を対象としながら、同プログラムの研究テーマであるテキスト布置のアプローチを採用することによって、ヨーロッパ中世における歴史記録に見られるテキストの引用の仕方や、その背後にある時代コンテキストの独自性の詳細を明らかにすることができました。

発表に続く質疑応答では、活発な議論が繰り広げられ、歴史研究分野におけるテキスト布置というテーマの重要性を改めて示しました。

国際学生会議（経済・経営分野）及び工場見学会を開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科は、9月7日(水)、8日(木)の2日間、東北大学大学院経済学研究科との共催で、『国際学生会議（経済・経営分野）及び工場見学会』を開催しました。

本学と東北大学大学院経済学研究科は、国際化拠点整備事業（G30）を踏まえた大学間パイロットネットワークによる連携を進めています。同会は、G30を含め増加傾向に

ある留学生に対する研究・実体験教育の推進を目的として実施されました。

1日目は、実体験教育として、午前中には愛知県豊田市にあるトヨタ自動車元町工場とトヨタ会館、午後には愛知県東海市にある新日本製鉄名古屋製鐵所の工場見学を行いました。

東北大学からの参加者の中には、トヨタの「カイゼン」や「カンバン」を学ぶために日本への留学を決めた留学生もおり、研究材料が目前にあることに感動していたようでした。

2日目は、研究教育として、各校6名ずつ合計12名が研究報告を行いました。各報告に対して相手校から討論者を選出され、類似分野の研究に対して意見交換を行い時には議論が沸騰しました。学外で研究報告を行うのが初めての留学生もおり、報告内容から得られるもののみならず、多くのものを学ぶ機会となったようでした。

今回の試みは実験的なものでしたが、日本の高等教育機関の国際競争力を向上させるために必要な、「大学間の協働」と「教育資源の戦略的な共有・活用」を実践する機会となりました。



トヨタ自動車元町工場での集合写真

第2回医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウムを開催

●大学院医学系研究科

大学院医学系研究科は、8月20日(土)、医学部附属病院中央診療棟講堂において、第2回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウムを開催しました。

同シンポジウムは、大学院医学系研究科と生理学研究所との研究連携の推進を目的に昨年度から実施されており、昨年は同研究所において開催され、本学での開催は今回が



ポスターセッションの様子

初めてとなります。今回は両機関から、昨年の参加者約120名を上回る、約170名の研究者が参加しました。

祖父江医学系研究科長及び岡田泰伸生理学研究所長のあいさつに始まり、講演の部、ポスターセッションの部、施設見学の部が続きました。

講演の部では、重本隆一生理学研究所教授から「脳の左右非対称性」、貝淵弘三医学系研究科教授から「蛋白質リン酸化の網羅的解析法の開発と展望」、伊佐 正同研究所教授から「神経回路をひも解く技術革命－経路選択的・可逆的神経伝達遮断法による手指巧緻運動制御系の解析」、室原豊明同研究科教授から「血管再生療法の基礎と臨床」について講演が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

講演の部の前半と後半の間に行われたポスターセッションの部においては、同研究所から20件、本学から39件の発表が交互に行われ、活発なディスカッションが交わされました。

施設見学の部においては、同研究所の研究者向けに、先端医療・臨床研究支援センターや手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」等を見学するツアーが行われました。

今後も同研究所と本学で1年毎の交互開催を継続する予定であり、より活発な研究連携の構築が期待されます。

平成23年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催

●遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、8月22日(月)、23日(火)の2日間、遺伝子実験施設及び理学部生命理学科学生実習室において、平成23年度スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修「真核生物の選択的遺伝子発現を RT-PCR で見る－恒常的発現と調節的発現－」を開催しました。



実習風景

今年で4回目となる同研修は、愛知県内の高校の理科教員に生命科学の進展を体験してもらうことを目的に始められたもので、愛知県の7つの高等学校から9名の教員が参加しました。講師は杉山康雄遺伝子実験施設准教授が務め、5名のティーチング・アシスタント (TA) が研修全体を補佐しました。

参加者は、初日、杉山准教授より真核生物の遺伝子発現の調節機構の説明を受けました。その後実習室へ移動し、高校教員がヒトの網膜、筋肉、脾臓から単離したリボ核酸 (RNA) に逆転写酵素を作用させて相補的デオキシリボ核酸 (cDNA) とし、特異的プライマーを使って遺伝子を増幅しました (これを RT-PCR 法といいます)。2日目は、臓器特異的に発現する遺伝子と、どの臓器にも普遍的に発現する遺伝子を確認する方法を体験しました。最後に、遺伝子実験施設に設置された次世代 DNA シーケンサーを見学し、井原邦夫同施設助教から、次世代 DNA シーケンサーを使った最新の研究について説明を受けました。

このように RT-PCR 法によって真核生物の遺伝子発現の検出ができることを体験し、今後の高校での授業に役立つ研修になったようです。

ICCAE 第4回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、9月5日（月）、2011年度第4回オープンセミナーを開催しました。

今回は、生源寺眞一生命農学研究科教授が、「世界の食料問題と日本農業のポジション」と題した講演を行いました。生源寺教授は、わが国を代表する農業経済学者で、東京大学農学部を卒業した後、農林省農事試験場では農業水



講演する生源寺教授

利・農業生産組織に関する調査研究に、また農林水産省北海道農業試験場では、米の生産調整、農家の階層分化、農地価格などに関する研究に従事してきました。その後、東京大学大学院農学生命科学研究科で、酪農の生産性を始め、国内外の農業、食糧産業政策など幅広い研究に従事するとともに、わが国の農業政策の立案に中心的な役割を果たしてきました。

講演で生源寺教授は、世界の食料需給は経済発展の続くアジアの食料消費と農業生産に大きく左右され、途上国支援は、貧困問題の改善を通じて国際社会の安定に貢献し、それが先進国の食料安全保障対策の負担軽減にも寄与することを指摘しました。さらに、経済成長への適応という点で、日本農業の経験からさまざまなレッスンを引き出すことができることを具体的な例とともに説明し、社会科学の観点から、食料自給率、農業の技術進歩、食の安全性、農村コミュニティの役割などを論じました。

学内、他大学から、また一般の方々も多数参加し、活発な議論が行われました。

世界化学年2011 特別企画 マリー・キュリーポスター展を開催

●物質科学国際研究センター

物質科学国際研究センターは、7月21日（木）から8月31日（水）までの間、野依記念物質科学研究館ケミストリーギャラリーにおいて、世界化学年2011（International Year of Chemistry 2011）特別企画「マリー・キュリーポスター展」を開催しました。

マリー・キュリーがノーベル化学賞を受賞してから100

年目にあたる2011年は世界化学年であり、これは、日本学術会議化学委員会が国際純正・応用化学連合（IUPAC; International Union of Pure and Applied Chemistry）からの呼びかけに賛同し、日本学術会議化学委員会 IUPAC 分科会と共にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）に働きかけをした結果、2008年に開催された国連総会で決定されたものです。

世界化学年日本委員会の委員長に野依良治特別教授が、また IUPAC の副会長に巽同センター長が就任していることもあり、同センターでの企画に注目が集まりました。

展示されたのは、マリー・キュリーの足跡を写真等資料を交えてたどった13枚のポスターで、パリのキュリー博物館とキュリー研究所が世界化学年を記念して制作したものです。

期間中に1000名近い人々が会場を訪れ、マリー・キュリーの偉大な功績を改めて認識していたようでした。



ギャラリーの様子

平成23年度目録システム地域講習会を実施

●附属図書館

附属図書館は、9月14日(水)から16日(金)の3日間、国立情報学研究所との共催で、平成23年度目録システム地域講習会(図書コース)を実施しました。

同講習会は、目録所在情報サービスに参加する各機関の担当者に対して、総合目録データベースの構成、内容、入力基準を習得させる目的で、全国8カ所で開催しているも



講義の様子

のです。

全国の大学図書館等が所蔵する図書や資料の総合目録データベースは、Webcatとしてインターネットでも公開されており、学習や研究に必須の情報源となっています。現在、所蔵レコード件数が1億1千万件を超え、データベースの品質維持が重要な課題となっていることもあり、東海・北陸地区の国公私立大学等から参加した22名の受講者は、WEB教材による事前学習も含め熱心に研修に取り組みました。

1日目の講習終了後には、講師を務めた東海・北陸地区の国立大学の図書館員6名が受講者から提出された答案を熱心に添削し、講師自らの反省も含めた実践的な講習会となりました。

また、2日目には交流昼食会が開かれ、参加者からは現場で抱えている問題や悩み、講師からは目録業務の楽しさ等が語られ、同じ業務に携わる仲間との有意義な交流の機会となりました。

アフガニスタン写真展を開催

●博物館

博物館は、6月2日(木)から8月31日(水)までの間、野外観察園セミナーハウス2階展示室において、アフガニスタン写真展「名古屋大学中央アジア栄養適応調査-1968-の記録」を開催しました。

同写真展では、昭和43年7月から9月にかけて本学が主体となり実施した、アフガニスタン北部イシュカシム村での



展示室の様子

「中央アジア乾燥地帯における栄養適応調査」の調査隊員による記録写真を中心として展示しました。これらは、内戦などの混乱で国土が荒廃する以前のアフガニスタンの人々の生活を、隊員の目を通して垣間見ることが出来る、貴重な映像資料です。

今回は、平成14年に開催した第5回名古屋大学博物館特別展「遙かなるアフガニスタン 名古屋大学中央アジア栄養適応調査-1968-」で公開したものの中から一部を展示し、好評を博しました。

ミクロの探検隊を開催

●博物館

博物館は、8月24日(水)、25日(木)の2回にわたり、同館実験室及び野外観察園において、それぞれミクロの探検隊「組織」、同「昆虫」を開催しました。

24日(水)の「組織」の回では、参加者は、まずタマネギの表皮細胞のプレパラートを作製、観察し、生物顕微鏡の操作を覚えました。次に、ラットの組織標本を用いて器官



標本観察に取り組む小・中学生

による組織の違いを観察し、同時に働きの違いも学びました。さらに、電子顕微鏡を操作し、膀胱や小腸などの組織を何千倍にも拡大して観察し、撮影も行いました。

25日(木)の「昆虫」の回では、小雨の降る中、野外観察園で昆虫採集を行い、昆虫の形がどう進化したかについての講義を受けました。続いて、自分の採取したムシを実体顕微鏡で観察し、さらに電子顕微鏡を使用した観察や撮影を行いました。

どちらの回も、応募者多数につき抽選で選ばれた20名の小・中学生が参加しました。参加者は大変熱心で、休憩時間さえも顕微鏡の中に広がるミクロの世界のとりこになっているようでした。アンケートの結果も「今度はプランクトンを観察したい。もっと昆虫採集をして、色々なムシの構造を観察したい」など、意欲的なものが目立ちました。

第2回地球教室「砂の中から宝石をさがそう!」を開催

●博物館

博物館は、8月27日(土)、28日(日)の2日間、第2回地球教室「砂の中から宝石をさがそう!」を開催しました。

地球教室は、名古屋市科学館との共催で年に4回開催する体験学習型の地域貢献事業で、今回は、夏休み最後の週末ということもあり、100名を超える応募者の中から抽選で選ばれた小・中学生とその保護者を含む約30名が参加し



砂を採集する参加者

ました。

1日目は、岡崎市大門付近の矢作川の河原に出かけ、パンニングという方法を用いて、川砂の中から比重の大きい鉱物を選別して採集しました。

2日目には、前日に採集した砂を、ルーペや実体顕微鏡を覗きながら、砂に含まれる様々な鉱物の形や色、磁性を調べながらガーネットやチタン鉄鉱、ジルコン、磁鉄鉱などに分類し、さらにそれらをスライドガラス上に試料化する作業を行いました。参加者は、砂の採集や鉱物の観察に没頭していました。なお、これらの作業は、参加者の体験サポートや安全確認のため、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けて行われました。

今年度の地球教室はあと2回予定されていますが、フィールドとラボを複合させながら、参加者により深い体験と満足を得てもらうことをめざします。

第15回博物館特別展「深海の生物と古生物－知多の化石から生きているウミユリまで－」を開催

●博物館



ウミユリの生態展示

博物館は、4月26日(火)から8月31日(水)までの間、第15回博物館特別展「深海の生物と古生物－知多の化石から生きているウミユリまで－」を開催しました。日本周辺の深海から採集された珍しい動物や、東海地方から採集された深海性動物の化石を展示しました。

深海にはまだ知られていない世界が広がっています。深海艇や深海調査船による調査が盛んに行われている現在においても、未知の動物が新たに発見され、研究されています。このような多様な深海動物の中からごく一部ではありますが、有名な例を中心に展示を行いました。特に、世界最大のカニであるタカアシガニや、体長40cmに達する節足動物である海の掃除屋、ダイオウグソクムシが来館者の目を引いたようでした。

「生きている化石」として有名なウミユリ（和名トリノアシ）の現生個体の生態展示も行いました。ウミユリは深海に生きているため、水槽の海水温を15℃に冷却する必要がある上、光を嫌うため、水槽を暗幕で覆わなければならないなど、展示にはかなりの工夫が必要でしたが、今回の特別展で最も注目を集めた展示になりました。

また、東海地方在住の化石蒐集家の協力を得て、これらの地層から産出したフクロウニ、ブンブクウニ、ウミユリ、ヒトデ、深海性の魚類などを展示しました。東海地方に分布する新生代の地層（約1600万年前の地層）には、深海動物の化石を産するものがあります。知多半島南部の師崎層群、三重県の一志層群の一部などです。これらの地層は深海に堆積しているので、含まれている化石は非常に少なく、珍しいものばかりです。中でも、シャリンヒトデやフクロウニの化石はとても保存が良く、また世界的に見てもほとんど化石の産出例が知られていないものであり、今後、これらに関する分類学的、生物地理学的な研究を行っていく必要があります。

さらに、同特別展に関連し、特別講演会を行いました。5月5日(木)には、大津樹生博物館教授が「知られざる深

海の世界」と題した講演を行い、潜水艇によるビデオ映像を用い、深海の姿とそこに生きる動物例を紹介しました。6月4日(土)には、サイエンスライター・動物研究家の倉谷うらら氏が「海岸から深海まで……ときどき空も飛ぶ?! なんと多様なフジツボの世界」と題し講演しました。一般的に良く知られているフジツボの多様な種類と不思議な幼生生態などを紹介しました。倉谷氏の身につけていたフジツボを使った髪留めなどの自作品にも注目が集まりました。どちらの講演会も多くの聴衆を集め、一見身近でありながら未知の世界である深海に興味を持たれたようでした。

新任部局長等の紹介

●学務部長

一居 利博
(いちい としひろ)



〈略歴〉

昭和56年4月 滋賀大学
昭和59年6月 文部省大臣官房調査統計課
昭和63年7月 文部省大臣官房調査統計企画課
平成9年4月 福井医科大学総務部庶務課長
平成11年4月 総合研究大学院大学総務課長
平成12年4月 京都教育大学庶務課長
平成13年4月 京都教育大学総務課長
平成13年7月 文部科学省高等教育局専門教育課専門官
平成16年4月 文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐
平成19年4月 電気通信大学企画調整役(企画・戦略担当)
平成21年4月 大学評価・学位授与機構管理部長
平成23年10月 名古屋大学学務部長

受賞者一覧

褒章関係

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23. 4.29	春の褒章 瑞宝中綬章	名誉教授	堀田 饒	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23. 3.28	日本原子力学会 第43回日本原子力学会賞論文賞	大学院工学研究科助教	平尾 茂一	
H23. 3.28	日本原子力学会 第43回日本原子力学会賞論文賞	大学院工学研究科教授	山澤 弘実	
H23. 3.28	日本原子力学会 第43回日本原子力学会賞技術賞	大学院工学研究科准教授	渡辺 賢一	
H23. 3.30	平成22年度資源・素材学会 第36回 論文賞	エコトピア科学研究所教授	市野 良一	興戸正純(大学院工学研究科教授)と連名
H23. 5.19	映像情報メディア学会 丹羽高柳賞功績賞	大学院工学研究科教授	谷本 正幸	
H23. 5.26	高分子学会 高分子研究奨励賞	大学院工学研究科講師	川口 大輔	
H23. 5.29	日本女医会吉岡弥生賞	名誉教授	後藤 節子	
H23. 5.31	廃棄物資源循環学会 論文賞	大学院工学研究科教授	成瀬 一郎	義家 亮(大学院工学研究科准教授)と連名
H23. 6. 2	人工知能学会 研究会優秀賞	大学院工学研究科准教授	駒谷 和範	
H23. 6. 9	XVth Symposium on Chemistry of Nucleic Acid Components Best Oral Presentation by Young Scientist	大学院工学研究科講師	檜田 啓	
H23. 6.10	地盤工学会 22年度地盤工学会論文賞	大学院工学研究科教授	野田 利弘	
H23. 6.16	ISSMO Spring Prize	大学院工学研究科助教	山田 崇恭	
H23. 6.18	留学生教育学会奨励賞	大学院経済学研究科講師	土井 康裕	
H23. 6.22	The 2011 IFSA World Congress and the 2011 AFSS International Conference Best Paper Award	大学院工学研究科教授	古橋 武	吉川大弘(大学院工学研究科准教授)、高橋弘武(大学院工学研究科D3)と連名
H23. 6.24	未踏科学技術協会 第15回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科教授	生田 博志	
H23. 6.24	未踏科学技術協会 第15回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科教授	宇治原 徹	
H23. 6.24	未踏科学技術協会 第15回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科准教授	田淵 雅夫	
H23. 6.24	未踏科学技術協会 第15回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科教授	竹田 美和	
H23. 6.27	Outstanding Poster Presentation Award, Eastern Asia Society for Transportation Studies (EASTS), 9th EASTS International Conference, Jeju, Korea	大学院工学研究科研究員	アルハヤシーン ワエル	
H23. 7. 1	第11回 AOB 研究会 奨励賞	大学院医学系研究科助教	岡崎 泰昌	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23. 7. 2	第64回日本酸化ストレス学会学術集会 学術奨励賞	大学院医学系研究科助教	岡崎 泰昌	
H23. 7.22	WATOC2011 ポスター賞	大学院情報科学研究科 研究員	高柳 昌芳	長岡正隆（大学院情報科学研究科教授）と 連名
H23. 7.22	Award for Academic Excellence 第43回日本医学教育学会 (International session)	大学院医学系研究科 寄附講座助教	阿部 恵子	
H23. 7.25	高分子学会 第21回バイオ高分子研究会 シンポジウム 若手研究者 奨励講演賞	大学院工学研究科講師	樫田 啓	
H23. 8. 8	日独交流150周年 日独友好賞 奨励賞	大学院経済学研究科講師	土井 康裕	
H23. 8.10	米国電気電子技術者協会 エジソン賞	特別教授	赤崎 勇	
H23. 8.17	The 26th International Conference on Low Temperature Physics, Award for Best Poster Presentation	大学院理学研究科助教	松下 琢	
H23. 8.19	Kuznets Prize	大学院経済学研究科研究員	平澤 誠	
H23. 8.31	日本実験力学学会 技術賞	大学院工学研究科講師	森田 康之	
H23. 9. 3	第48回補体シンポジウム 優秀賞	大学院医学系研究科 寄附講座講師	水野 正司	
H23. 9. 4	5th SFRR Japan Young Investigator Award	大学院医学系研究科助教	岡崎 泰昌	
H23. 9.10	日本テスト学会学会賞	大学院教育発達科学研究科 教授	野口 裕之	
H23. 9.10	日本テスト学会論文賞	大学院教育発達科学研究科 准教授	石井 秀宗	安永和央（教育発達科学研究科 D2）と連名
H.23.9.13	日本行動計量学会 出版賞	大学院経済学研究科准教授	星野 崇宏	
H.23.9.13	科学技術振興機構 知的財産特別貢献賞	特別教授	赤崎 勇	
H.23.9.13	Outstanding Contribution to KES Award	大学院情報科学研究科教授	渡邊 豊英	
H23. 9.15	日本地球化学会功労賞	年代測定総合研究センター 教授	中村 俊夫	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H23. 2.24	電子情報通信学会 論文発表奨励賞	大学院工学研究科 D3	沖川 侑揮	
H23. 3. 5	ライフサポート学会 奨励賞	大学院工学研究科 M2	伊藤 優司	
H23. 3.25	日本機械学会 三浦賞	大学院工学研究科 M2	伊藤 優司	
H23. 3.26	日本衛生学会 若手優秀抄録賞	大学院医学系研究科 D2	林 由美	
H23. 4.15	日本航空宇宙学会 学生優秀講演賞	大学院工学研究科 M2	真能 翔也	
H23. 5.21	シンポジウム「モレキュラー・キラリティー 2011」ポスター賞 優秀賞	大学院工学研究科 M2	牧口 航	
H23. 6. 9	日本ばね学会 2011年度春季ばね及び復元力 応用講演会 ベストインプレッション賞	大学院工学研究科 M1	貴志 友哉	巨 陽（大学院工学研究科教授）、 細井厚志（大学院工学研究科助教）と連名
H23. 6.11	化学とマイクロ・ナノシステム研究会 第23回化学とマイクロ・ナノシステム研究会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D3	安井 隆雄	
H23. 6.11	化学とマイクロ・ナノシステム研究会 第23回化学とマイクロ・ナノシステム研究会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D1	佐久間臣耶	
H23. 6.17	第34回日本基礎老化学会 若手奨励賞	大学院医学系研究科 D2	程 钊	
H23. 6.18	第8回 Cat-CVD 研究会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	鷺見 直也	堀 勝（大学院工学研究科教授）、 石川健治（大学院工学研究科特任教授）、 関根 誠（大学院工学研究科特任教授）、 近藤博基（大学院工学研究科特任准教授）、 竹田圭吾（大学院工学研究科助教）、 鷺見直哉（大学院工学研究科 M2）と連名
H23. 6.18	日本結晶成長学会 ナノ構造・エピタキシャル 成長分科会 発表奨励賞	大学院工学研究科 M2	坂倉 誠也	
H23. 6.19	MTSA 2011 Best Poster Award	大学院工学研究科 D3	内田 裕久	杉山 宗（大学院工学研究科 M1）と連名
H23. 6.19	MTSA 2011 Best Poster Award	大学院工学研究科 M2	管 宇	川瀬晃道（エコトピア科学研究所教授）、 竹家 啓（大学院工学研究科助教）、 他1名と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H23. 6.19	MTSA 2011 Best Poster Award	大学院工学研究科 D3	内田 裕久	杉山 宗 (大学院工学研究科 M1) と連名
H23. 6.27	Outstanding Poster Presentation Award, Eastern Asia Society for Transportation Studies (EASTS), 9th EASTS International Conference, Jeju, Korea	大学院工学研究科 D2	陳 鵬	
H23. 6.28	Certificate of Student Paper Prize The 7th East Asia SIAM Conference in Waseda University, Japan 2nd Prize	大学院工学研究科 D3	杜 磊	
H23. 7. 1	日本セラミックス協会東海支部 東海若手セラミスト懇話会 最優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	石田 兼基	
H23. 7. 7	社団法人セメント協会 第65回セメント技術大会 優秀講演者賞	大学院環境学研究科 D3	寺本 篤史	
H23. 7. 9	第46回有機反応若手の会 ポスター賞	大学院理学研究科 M1	松浦沙奈枝	
H23. 7.12	第6回 ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞	大学院理学研究科 D2	植田 桐加	
H23. 7.14	日本コンクリート工学会 第33回コンクリート工学講演会 年次論文奨励賞	大学院工学研究科 D2	姜 忠賢	
H23. 7.14	日本コンクリート工学会 第33回コンクリート工学講演会 年次論文奨励賞	大学院工学研究科 M2	玉野 慶吾	
H23. 7.21	30th International Conference on Thermoelectrics, 2011 THE ITS OUTSTANDING SCIENTIFIC POSTER	大学院工学研究科 D2	ブトリ ユリア エカ	
H23. 7.25	Young Investigator Award (YIA)	大学院医学系研究科 D2	鈴木 敦夫	
H23. 7.25	ISTH Asian-Pacific Scholarship	大学院医学系研究科 D2	藤田 絢子	
H23. 7.25	高分子学会 第21回バイオ高分子研究会 シンポジウム 学生優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	大澤 卓矢	
H23. 7.25	2010年度日本教育心理学会優秀論文賞	大学院教育発達科学研究科 研究生	橘 春菜	他1名と連名
H23. 7.26	International Conference on Sustainable Animal Agriculture for Developing Countries 2011 Young Scientist Award	大学院環境学研究科 D2	白井 正樹	
H23. 8. 7	2011年度 PC カンファレンス学生論文賞	大学院情報科学研究科 M1	平松 幸恵	安田孝美 (大学院情報科学研究科教授)、 他1名と連名
H23. 8. 9	9th International Eclogite Conference Best Student Presentation	大学院環境学研究科 D2	瀨瀬 佑衣	
H23. 9. 5	第14回労働経済学カンファレンス ポスターセッション優秀論文賞	大学院経済学研究科 D1	古村 聖	
H23. 9. 6	第40回記念フラレン・ナノチューブ総合シンポジウム 若手奨励賞	大学院理学研究科 M2	伊東 真一	
H23. 9. 8	日本セラミックス協会 第24回秋季シンポジウム優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	松田 巧	余語利信 (エコトピア科学研究所教授)、 坂本 渉 (エコトピア科学研究所准教授)、 守谷 誠 (エコトピア科学研究所助教)、 他2名と連名
H23. 9. 8	日本セラミックス協会 第24回秋季シンポジウム優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	牧野 成道	余語利信 (エコトピア科学研究所教授)、 坂本 渉 (エコトピア科学研究所准教授)、 守谷 誠 (エコトピア科学研究所助教) と 連名
H23. 9. 8	日本セラミックス協会 第24回秋季シンポジウム優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	佐藤 雄飛	余語利信 (エコトピア科学研究所教授)、 坂本 渉 (エコトピア科学研究所准教授)、 守谷 誠 (エコトピア科学研究所助教)、 他1名と連名

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
1 現代日本誤百科 (479):「人生で一番うまい」ラーメン 町田 健文学研究科教授	8.16 (火)	中日 (朝刊)
2 川崎浩司工学研究科准教授の試算で浜岡原子力発電所に押し寄せる津波の高さが6～7メートルとの結果が出る	8.16 (火)	中日 (朝刊)
3 「産官学連携・東海経済セミナー」開催:9月1日 川崎浩司工学研究科准教授が講演	8.16 (火)	中日 (朝刊)
4 情報科学研究科基盤研究公開セミナー「記録の情報科学ー技と知の記録と応用ー」開催:27日	8.16 (火)	中日 (朝刊)
5 赤崎 勇本学特別教授がエジソン賞を受賞	8.17 (水)	日刊工業
6 現代日本誤百科 (480):「I ターン」町田 健文学研究科教授	8.17 (水)	中日 (朝刊)
7 森下景子さん本学学生は東日本大震災の被災者に手編みの防寒具を送る講習会に参加する	8.17 (水)	中日 (朝刊)
8 是津信行グリーンモビリティ連携研究センター准教授は「電気自動車で新しい価値観を提供したい」と話す	8.17 (水)	日刊工業
9 現代日本誤百科 (481):激しい「雨がもたらされた」町田 健文学研究科教授	8.18 (木)	中日 (朝刊)
10 野依良治本学特別教授は今後の日本の科学技術政策について語る	8.19 (金)	日刊工業
11 防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」開催:9月3日	8.19 (金)	朝日 (朝刊)
12 あいち自然再生カレッジ第9回「雑木林の樹木学と生物多様性」:11月19日 山本進一生命農学研究科教授が講師を務める	8.19 (金)	毎日 (朝刊)
13 テクノ・フェア名大2011「名大もの作り最前線ー創造から技術へー」開催:9月2日	8.19 (金) 8.26 (金)	読売 日刊工業
14 田所敬一環境学研究科准教授は19日に福島県沖で起きた震度5弱の地震について「地殻の状態が一変し、大きな地震が誘発されやすくなっている」と語る	8.20 (土)	日経 (朝刊)
15 本学をはじめとする北海道・東海・関西の3地域の18国立大学が事務管理部門を軸に包括連携に向けて動き出し、濱口総長は「実際にやってみて、利点が多ければ、もっと幅広い分野に広げたい」と話す	8.20 (土)	朝日 (朝刊) 関東版 北海道版 東海版 関西版
16 中日文化センター新講座:「昭和戦前期の激動政治～昭和陸軍と対米開戦への道～」川田 稔環境学研究科教授	8.23 (火)	中日 (朝刊)
17 町田 健文学研究科教授は討論会「アイデンティティとは何か 日本人であるということ」にゲスト参加する	8.20 (土)	中日 (夕刊)
18 本学や大阪大学バイオサイエンス研究所などのチーム マウス実験で微小な RNA の一種が神経形成に関与することを突き止める	8.21 (日)	日経 (朝刊)
19 現代日本誤百科 (482):「ミックス犬」町田 健文学研究科教授	8.22 (月)	毎日 (朝刊) 日経 (朝刊)
20 川崎浩司工学研究科准教授は「防波堤が津波を防ぐには、波の1.5～2倍の高さが必要」と指摘する	8.22 (月)	中日 (朝刊)
21 現代日本誤百科 (483):「刑事罰を招来する」町田 健文学研究科教授	8.22 (月)	中日 (朝刊)
22 医学部附属病院が内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入している病院の一つとして挙げられる	8.23 (火)	中日 (朝刊)
23 市民公開講座「関節リウマチの新しい薬物治療へかけがえのないものを守りたい～」開催:10月9日 石黒直樹医学系研究科教授が話す	8.23 (火)	中日 (朝刊)
24 第15回 spcafé「人工生命アプローチで謎解き楽しむ鳥の歌」開催:31日 鈴木麗麗情報科学研究科准教授が話す	8.23 (火)	中日 (朝刊)
25 野依良治本学特別教授は化学の進むべき道について語る	8.24 (水)	日刊工業
26 本学で行われている分子機能物質の研究者育成を目指すグローバル COE プログラムの内容が紹介される	8.24 (水)	日刊工業
27 レーザー:飯島澄男本学特別招へい教授は「多様性が成果を生む」と語る	8.24 (水)	日刊工業
28 現代日本誤百科 (484):「まんざら役に立つ」町田 健文学研究科教授	8.24 (水)	中日 (朝刊)
29 生体制御学会学術集会・市民公開講座開催:28日 福田真人国際言語文化研究科教授が講演	8.24 (水)	中日 (朝刊)
30 現代日本誤百科 (485):「借り入れする」町田 健文学研究科教授	8.24 (水)	中日 (朝刊)
31 福和伸夫環境学研究科教授は企業の防災訓練について「社員1人ひとりの意識向上が欠かせない。社屋だけでなく社員の自宅の耐震性調査も考えるべき」と話す	8.25 (水)	日経 (朝刊)
32 杉谷健一郎環境学研究科教授は微生物化石の「地球最古」論争について、「一般的に分析項目が増えるほど確実性は増すが、どれも化石と断定できる決定的証拠にはならない」と話す	8.25 (水)	朝日 (朝刊)
33 ヘルシーメニューをアフリカの子どもの給食への寄付金付きで販売する「テーブル・フォー・ツー」の取り組みを進める東京のNPO支部元代表が本学を訪れ、その取り組みに協力する本学学生と学生食堂で交流し意見交換を行う	8.25 (水)	中日 (朝刊)
34 本学などの研究チーム 天の川のあるセフィド変光星を世界で初めて発見	8.25 (水)	日経 (夕刊)
35 「地震災害緊急シンポジウム」での鷺谷 威環境学研究科教授の発言が紹介される	8.25 (水)	中日 (朝刊)
36 鈴木康弘環境学研究科教授は国と愛知県の「防災の日」の連携ができていないことに関して「縦割りを乗り越え、訓練での連携を広げて欲しい」と話す	8.26 (木)	中日 (朝刊)
37 益川敏英本学特別教授、忍久保 洋工学研究科教授、鈴木治彦医学系研究科准教授、塚越啓央高等研究院特任助教は今年度の大幸財団の研究助成先に採択される	8.26 (木)	中日 (朝刊)
38 日本法教育研究センターの夏期セミナーに参加するハノイ法科大学の学生が中部経済連合会を訪問	8.26 (木)	中日 (朝刊)
39 博物館企画展「ミクロの美術館ー顕微鏡で見た人体の世界」開催:9月13日～11月19日	8.26 (木)	中日 (朝刊) 読売 朝日 (朝刊)
40 後 房雄法学研究科教授は菅 直人首相の退陣表明に際して「抜本的な解決策を与野党で考えるべきだ」と語る	9.10 (土)	中日 (朝刊)
41 第70回日本癌学会学術総会 プレイバント特別企画セミナー若者向け講座「がん研究の現在・過去・未来ー若者へのメッセージー」開催:10月2日 貝淵弘三医学系研究科教授が話す	8.27 (土)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年8月16日～9月15日]

記事	年月日	新聞等名
42 小野耕二法学研究科教授は名古屋市議会のリコールの意義と課題を語る	8.27 (土)	日経 (夕刊)
43 伴 信太郎医学系研究科教授は医学部の目指す人材育成について語る	8.28 (日)	朝日 (朝刊)
44 稲熊 凱さん、石原敏和さん本学学生は自分の目指す医師像や受験生へのアドバイスを語る	8.28 (日)	朝日 (朝刊)
45 名古屋大学ラジオ公開講座第9回「大地震の発生予測を目指して」：28日放送 鷲谷 威環境学研究科教授が話す	8.28 (日)	中日 (朝刊)
46 第23回福山フォーラム「現代の医療はどこまでできるか？」開催：10月1日 三浦昌子医学部附属病院看護部長が講演	8.28 (日)	日経 (朝刊) 折込広告
47 朝日カルチャーセンター新講座：「やってみよう！哲学の論争」「ドイツ語 (対訳) で読むハイデッカー『芸術作品の根源』」宮原 勇文学研究科教授「最新宇宙講座」杉山 直理学研究科教授、犬塚修一郎同教授、國枝秀世同教授、草野完也太陽地球環境研究所教授、竹内 努理学研究科准教授「ルネッサンスの象徴を読み解く 図像学入門」鈴木繁夫国際言語文化研究科教授「西洋中世美術史—中世の写本挿絵史概説」木俣元一文学研究科教授	8.28 (日)	朝日 (朝刊)
48 川崎浩司工学研究科准教授は「安全な高台や高い建造物まで最短距離の道を徒歩で向かう方が、車で逃げるより助かる確率が高い地域は多かった」と話す	8.29 (月)	中日 (朝刊)
49 現代日本訳百科 (486)：多くの「配管が繋がって」いる 町田 健文学研究科教授	8.29 (月)	中日 (朝刊)
50 本学の構内に中日本高速道路が橋梁の研究施設を設置する	8.30 (火)	日経 (朝刊)
51 第8回中央日本交流・連携サミット開催：29日 平野真一前総長が司会を務める	8.30 (火)	中日 (朝刊)
52 福和伸夫環境学研究科教授は減災の考え方、取り組み、都市型災害に対する備えについて語る	8.30 (火)	日経 (朝刊)
53 「第二回 NAGOYA からのニッポン復活 応援シンポジウム『震災時の安全コミュニケーションと地域復興』」での隈本邦彦本学客員教授の基調講演の内容が紹介される	8.30 (火)	日経 (朝刊)
54 山本章夫工学研究科教授は浜岡原発5号機の評価委員会に参加する	8.30 (火)	中日 (朝刊)
55 現代日本訳百科 (487)：「乗り心地がスバルタン」町田 健文学研究科教授	8.31 (水)	中日 (朝刊)
56 尾崎紀夫医学系研究科教授、田中 聡医学部附属病院助教は病気を抱える人の緊急避難時に向けた備えのリスト制作に協力する	8.31 (水)	朝日 (朝刊)
57 「反貧困ネットワークあいち」代表を務める和田 肇法学研究科教授は野田佳彦首相に向けて貧困対策についての要望を述べる	8.31 (水)	朝日 (朝刊)
58 本学は法学部在学中に亡くなった伊藤康祐さん本学学生の遺志を元に創設した「伊藤康祐基金」を活用し、ウズベキスタンのタシケント国立法科大学に書籍100冊を寄贈する	8.31 (水)	読売
59 本学などから血液の提供を受け、広島大学のグループが血液検査でうつ病診断の有力な新指標を発見する	8.31 (水)	中日 (朝刊)
60 現代日本訳百科 (488)：電機器具は「コンセントから抜いて」おく 町田 健文学研究科教授	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
61 訃報：榊原欣作本学名誉教授	9. 1 (木)	読売
62 川崎浩司工学研究科准教授は東海・東南海・南海の三連動地震が東日本大震災と同じ規模で発生すれば津波が15メートル級となる恐れを指摘する	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
63 山岡耕春環境学研究科教授は「東海・東南海・南海の三連動地震は阪神大震災のような建物の倒壊と、東日本大震災のような津波被害が合わさってやってくると思った方がよい」と指摘する	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
64 木股文昭環境学研究科教授は地震に備えて今できることについて語る	9. 1 (木)	朝日 (朝刊)
65 私の視点：鈴木康弘環境学研究科教授は新設される原子力安全庁に対する要望を述べる	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
66 空気調和・衛生工学会主催公開講演会「東日本大震災とこれからの備え」開催：14日 山岡耕春環境学研究科教授、福和伸夫同教授が講演	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
67 著作：「三連動地震震る～東海・東南海・南海」木股文昭環境学研究科教授	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
68 山本章夫工学研究科教授、福和伸夫環境学研究科教授 愛知県防災局のアドバイザーに就任	9. 1 (木) 9. 2 (金)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊) 他2社
69 「放射性物質と食品の安全性」開催：山澤弘実工学研究科教授が講演	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
70 本学は文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に複数の類型を合わせ応募する	9. 2 (金)	日刊工業
71 医学部附属病院は中日新聞『リンクト』vol. 5 災害医療特集に協力する	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
72 伊藤由布子さん本学学生は本学女子ラクロス部主将を務め、部のこれからの抱負を語る	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
73 大内乗有医学系研究科寄附講座教授、室原豊明医学系研究科教授らのグループ 血糖値を下げる新たんぱく質を発見	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
74 野依良治本学特別教授 愛知県名誉県民章を受章	9. 2 (金)	朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
75 平野真一前総長の「第8回中央日本交流・連携サミット」でのコーディネーターとしての発言が紹介される	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
76 あいちサイエンスフェスティバル・さかえサイエンストーク第8回「古生物学者の世界見聞録～フィールド調査と異文化交流～」開催：13日 サイエンスコミュニケーション推進室主催	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
77 医学部学生会が中日新聞社社会事業団東日本大震災災害義援金を届ける	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
78 河合塾文化行事講演「ドクターGに聴け！総合診療とは？」開催：13日 鈴木富雄医学部附属病院講師が話す	9. 3 (土)	中日 (朝刊)
79 「Viva 地球フォーラム2011 ～スマート社会がもたらす次世代ライフスタイル～」開催：10月8日 杉山範子環境学研究科特任准教授がパネリストとして参加	9. 3 (土)	中日 (朝刊)
80 濱口総長は「人」「ニューワーク」「本」など、自分の好きなものについて語る	9. 4 (日)	毎日 (朝刊)
81 「関節リウマチの新しい薬物療法」開催：10月9日 石黒直樹医学系研究科教授が司会	9. 4 (日)	中日 (朝刊)
82 3日に開催された「防災・減災シンポジウム『東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携』」の内容が紹介される	9. 4 (日)	朝日 (朝刊)
83 シンポジウム「東日本大震災 大学の責務と貢献を考える」開催：11日 濱口総長がパネル討議に参加	9. 5 (月)	日経 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
84 現代日本誤百科 (489)：「阪神大震災を経験した」町田 健文学研究科教授	9. 5 (月)	中日 (朝刊)
85 本学で開かれた「高校生防災セミナー」の様子が紹介される	9. 5 (月)	中日 (朝刊)
86 現代日本誤百科 (490)：「スピード感をもって対応する」町田 健文学研究科教授	9. 6 (火)	中日 (朝刊)
87 本学・朝日新聞社主催の「防災・減災シンポジウム『東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携』」での募金が東日本大震災義援金朝日新聞厚生文化事業団受付分に寄付される	9. 6 (火)	朝日 (朝刊)
88 今釜史郎医学部附属病院助教は腰部脊柱管狭窄症の対処法について回答する	9. 6 (火)	中日 (朝刊)
89 現代日本誤百科 (491)：「復興の起爆剤」町田 健文学研究科教授	9. 7 (水)	中日 (朝刊)
90 広報誌制作教室開催：12日 福井康雄理学研究科教授教授、戸田山和久情報科学研究科教授が話す	9. 7 (水)	中日 (朝刊)
91 大島伸一元医学部附属病院長への新聞読者からのエールが掲載される	9. 7 (水)	中日 (夕刊)
92 瀧口総長は7日、創立40周年を迎えた愛知県立五条高等学校で記念講演を行う	9. 8 (木)	中日 (朝刊) 尾張版
93 現代日本誤百科 (492)：「昼に写真を撮る」町田 健文学研究科教授	9. 8 (木)	中日 (朝刊)
94 著作：「日本農業の真実」生源寺真一生命農学研究科教授著	9. 8 (木)	日経 (夕刊)
95 2011年新司法試験合格者発表 本学は43人合格し全国で13位の合格数となる	9. 9 (金)	日経 (朝刊) 他2社
96 本学学生たちが復興支援チャリティーコンサートを開催する：11日	9. 9 (金)	中日 (朝刊)
97 ミクロの探検隊「動物組織の不思議」：10月1日	9. 9 (金)	中日 (朝刊)
98 成瀬一郎工学研究科教授の「環境調和型高効率廃棄物燃焼、熱分解／ガス化技術に関する共同研究」が科学技術振興機構と中国国家自然科学基金委員会の「廃棄物・排熱などによるエネルギーリサイクル技術」に関する研究交流課題に採択される	9. 9 (金)	日刊工業
99 赤崎 勇本学特別教授が「知財特別貢献賞」を受賞	9. 9 (金) 9.14 (水)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
100 東日本大震災について、伊藤武男環境学研究科助教は「今回の地震では宮城県沖の日本海溝付近で約60メートルもの滑りが生じた」と話し、山岡耕春同教授は「過去の巨大地震でも、断層のなかで特定の部分が大きく滑っているケースが多い」と話す	9.10 (土)	読売
101 山岡耕春環境学研究科教授は小松左京氏の小説「日本沈没」について、「地球科学の面白さに興味を持つきっかけになったし、科学を志す動機づけになった」と話す	9.10 (土)	朝日 (朝刊) be on Saturday
102 愛知県は本学などの6つの地区を航空宇宙産業育成に向け、国の「国際戦略総合特区」に申請することを決定	9.10 (土) 9.15 (木)	朝日 (朝刊) 読売 中日 (朝刊)
103 杉山理事は本学のキャリア支援について語る	9.11 (日)	中日 (朝刊)
104 飯島澄男本学特別招へい教授が発見した単層カーボンナノチューブの本格的な実用例がまだない理由が解説される	9.11 (日)	日経 (朝刊)
105 現代日本誤百科 (493)：「長者番付に顔を出す」町田 健文学研究科教授	9.13 (火)	中日 (朝刊)
106 さかえサイエンストーク第9回「私がダニのコンピュータグラフィックを描くようになったわけ？ ダニから見た生物多様性」開催：23日	9.13 (火)	中日 (朝刊)
107 当間崇裕さん本学学生はインターンシップで朝日新聞社本社と工場を見学する	9.13 (火)	朝日 (朝刊)
108 「FM フェスティバル2011『未来授業』」開催：10月5日 益川敏英本学特別教授が講演	9.14 (水)	読売
109 下村 脩本学特別教授がクラゲから抽出するのに初めて成功した緑色蛍光タンパク質を用いて、米国研究チームが光る猫を作成する	9.14 (水)	読売
110 本学に橋の保全技術習得を目的にした研究施設「ニューブリッジ」が完成、除幕式が行われる	9.14 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
111 現代日本誤百科 (494)：「真夏日を記録」した 町田 健文学研究科教授	9.14 (水)	中日 (朝刊)
112 13日から開催中の博物館企画展「ミクロの美術館—顕微鏡で見た人体の世界」の内容が紹介される	9.14 (水)	中日 (朝刊)
113 口遊録：本学主催の「あいちサイエンスフェスティバル」で講演する予定の日本 IBM 株式会社社長 橋本孝之氏は情報関連投資の回復について語る	9.14 (水)	中日 (朝刊)
114 福和伸夫環境学研究科教授、水谷法美工学研究科教授が CBC テレビ「イッポウ」の特番「巨大地震 “その時” 生き抜くために」に出演：15日	9.14 (水)	中日 (夕刊)
115 公開講演会「蛍光タンパク質の発見と生命科学研究への応用」開催：10月2日 下村 脩本学特別教授が講演	9.15 (木)	中日 (朝刊)
116 あいちサイエンスフェスティバル講演会「先端科学技術と社会」開催：10月1日～11月5日 益川敏英本学特別教授、飯島澄男本学特別招へい教授らが講演	9.15 (木)	中日 (朝刊)
117 現代日本誤百科 (495)：「英語を挫折する」町田 健文学研究科教授	9.15 (木)	中日 (朝刊)
118 森川高行環境学研究科教授、福和伸夫同教授らが寄稿してきた冊子「アーバンアドバンス」が設立20周年を迎える	9.15 (木)	中日 (朝刊)
119 上田良二先生生誕百年記念講演会「科学する精神と日本社会」開催：10月1日 工学部応用物理学教室が後援	9.15 (木)	中日 (朝刊)
120 「歴史的建造物シンポジウム」開催：10月10日 西澤泰彦環境学研究科准教授が対談	9.15 (木)	中日 (朝刊)

附属図書館2011年秋季特別展

「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」を開催中

附属図書館では、10月14日(金)から11月4日(金)まで、2011年秋季特別展「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」を開催しています。平成22年に本学元職員藤本保紀氏より寄贈を受けた、江戸時代後期から幕末にかけての和算書及びそろばんと、そろばんに関連する資料を展示しています。

資料には、算額や明治期の算数の教科書、引き札なども含まれており、庶民が和算ひいては計算するというところに熱中していたかをご覧ください。小・中・高校生の皆さん向けには、変わったそろばんを試したりゲームなどで日本の計算文化にふれる体験コーナーもあります。

また、10月29日(土)14時から16時まで、中央図書館5階多目的室において講演会を開催します。

みなさまのご来場をお待ちしております。



『初学重宝算法知恵輪』(1841)



文箱そろばん



[展示会]

場 所：中央図書館4階展示室
 期 間：10月14日(金)～11月4日(金)
 (土・日・祝日も開室)
 時 間：9:30～17:00 (入場は16:30まで)
 入 場 料：無料
 問合せ先：附属図書館事務部情報管理課庶務掛
 Tel 052-789-3667

[講演会]

場 所：中央図書館5階多目的室
 日 時：10月29日(土) 14:00～16:00
 講演題目：「そろばんの繪・色色」
 講 演 者：藤本保紀氏 (日本数学史学会会員・珠算史研究学会会員)
 講演題目：「和算書と算額」
 講 演 者：深川英俊 (本学非常勤講師)
 参 加 費：無料

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月18日(木)～10月20日(木)
 (毎週火・木曜日)

平成23年度 名古屋大学公開講座

場 所：シンポジオンホール
 時 間：18:00～19:30
 定 員：200名
 参 加 費：9,200円 (全15回)

テ ー マ：「夢見た今と夢見る未来」

[問い合わせ先]

研究協力部
 社会連携課社会連携掛 052-747-6584



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月13日(火)～11月19日(土)

場 所：博物館 3階展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

企画展「ミクロの美術館－顕微鏡で見た人体の世界－」

[関連講演会] 10月28日(金)、11月5日(土)、11月19日(土)

場 所：博物館 3階講義室
時 間：13:30～15:00

講演題目：「顕微鏡組織図－画家がみた細胞の世界－」(10/28)

講 演 者：小林身哉氏(金城学院大学教授)

講演題目：「目で見る生命現象：最新の電顕技術が解き明かす
ミクロ(細胞)の世界」(11/5)

講 演 者：白倉治郎(エコトピア科学研究所教授)

講演題目：「電子顕微鏡で観る楽しみ」(11/19)

講 演 者：蛭薙観順(博物館准教授)

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



10月1日(土)～11月6日(日)

場 所：愛知県全域
対 象：一般

あいちサイエンスフェスティバル2011

内 容：市民向け講演会、研究者と市民の対話イベント等を実施

[問い合わせ先]

あいちサイエンス・コミュニケーション・
ネットワーク(産学官連携推進本部内)
052-747-6527



10月7日(金)～10月17日(月)

場 所：野依記念物質科学研究館 2階
ケミストリーギャラリー
時 間：10:00～17:00
入 場 料：無料

世界化学年2011特別展示

「祖国から見たマリー・キュリー」

内 容：女性として、母として、化学者として生きたマリー・
キュリーの人生をポーランドからの視点で紹介

[問い合わせ先]

物質科学国際研究センター事務室
052-789-5907



10月14日(金)～11月4日(金)

場 所：中央図書館 4階展示室
時 間：9:30～17:00
入 場 料：無料

附属図書館2011年秋季特別展

「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」

[関連講演会]

10月29日(土)

場 所：中央図書館 5階多目的室

時 間：14:00～16:00

講演題目：「そろばんの繪・色色」

講 演 者：藤本保紀氏(日本数学史学会会員・珠算史研究学会会員)

講演題目：「和算書と算額」

講 演 者：深川英俊(本学非常勤講師)

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

附属図書館
事務部情報管理課庶務掛 052-789-3667



10月17日(月)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール、会議室
時 間：13:00～17:50
定 員：190名
対 象：一般
参 加 費：1,000円(学生は無料)

材料バックキャストテクノロジーシンポジウム

テ ー マ：「太陽エネルギー社会構築のための材料テクノロジーの開拓」

内 容：講演、ポスターセッション

[問い合わせ先]

工学研究科
材料バックキャストテクノロジー
研究センター 052-789-3589

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月17日(月)

場 所：環境総合館 1階レクチャーホール
時 間：18:00～19:30
対 象：一般
参 加 費：無料

第73回防災アカデミー

講演題目：「液化化を含む地盤の地震時被害」
講 演 者：野田利弘（工学研究科教授）

[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6038

10月18日(火)、11月8日(火)

場 所：野依記念物質科学研究館
2階講演室
時 間：10:30～12:00
参 加 費：無料

グローバル COE プログラム

「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」 講義「社会と科学」

講演題目：「21世紀の科学」(10/18)
講 演 者：黒田玲子氏（東京大学教授）
講演題目：「産学官連携のコミュニケーション」(11/8)
講 演 者：山本佳世子氏（日刊工業新聞社論説委員）

[問い合わせ先]

GCOE 事務局 052-788-6200

10月19日(水)

場 所：野依記念学術交流館
2階カンファレンスホール
時 間：13:00～15:30
対 象：一般
参 加 費：無料

あいち男女共同参画社会推進・

産学官連携フォーラムシンポジウム

テ ー マ：「イクメンについて考えるー男女が共に働き続けるためにー」
内 容：総長講演、パネルディスカッション、こすもす保育園及び学内学童保育所の紹介と見学会（見学会は事前希望者のみ）、ビデオ上映

[問い合わせ先]

総務部職員課

男女共同参画担当 052-789-5976

10月22日(土)、11月19日(土)、 12月3日(土)、12月17日(土)、 1月14日(土)

場 所：インキュベーション施設 1階
プレゼンテーションルーム
時 間：10:00～
対 象：一般
参 加 費：無料

ビジネス人材育成センター

平成23年度後期 B 人セミナー

テ ー マ：「大学院生、ポスドクのためのビジネススキル入門」、
「製造業における、知財戦略と知財部門の業務内容」(10/22)
「バイオ業界の現状と求められる“人財”」、
「プロフェッショナル 仕事の流儀 in 名古屋大学」(11/19)
「食品業界および企業での研究開発について」、「弁理士の業界と業務」(12/3)
「グローバルスタンダードな伝達技術とは」、
「論理的でわかりやすい伝達技術（アウトライン化）」、
「アウトライン化：事例演習と実践練習」、「社会人に求められるビジネスマナー」(12/17)
「医薬品・医療機器産業の近未来」、「プレゼンテーションスキル研修」(1/14)

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

10月22日(土)

場 所：博物館ピロティエー
時 間：13:00～16:00
定 員：20名
対 象：小学5年生以上
(小学生は保護者同伴にて)
参 加 費：50円（保険料）

博物館体験ワークショップ

テ ー マ：「石器から学ぶ文化と自然ー石器からみるヒトの進化ー」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



10月23日(日)、3月4日(日)

場 所：医学部保健学科東館 4階大講義室
時 間：13:30～16:30
参 加 費：2,000円（全4回）

平成23年度 がんを生き抜くライフトピアスクール

内 容：「がんの治療法」、「アップデート」(10/23)
「明るく病氣と向き合う」、「修了式」(3/4)

[問い合わせ先]

医学部保健学科 GP 事務室 052-719-3158

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月25日(火)

場 所：知立リリオコンサートホール
(知立市中町中132番地)

時 間：14:00~16:00

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

環境学研究科

しんきん環境事業イノベーション寄附講座

052-747-6550

環境学研究科

しんきん環境事業イノベーション寄附講座

第2シリーズ第5回講演会

講演題目：「地球にも人にもやさしい街づくりー交通環境からCO₂を考えるー」

講 演 者：加藤博和 (環境学研究科准教授)

講演題目：「市民がつくる新たな金融ーみんなの“志金”で地域を元気にー」

講 演 者：木村真樹氏 (コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事)

10月26日(水)

場 所：野依記念学術交流館 2階
カンファレンスホール

時 間：16:30~18:00

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

GCOE 事務局

gcoe-office@chem.nagoya-u.ac.jp

グローバル COE プログラム

「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」

化学系セミナー

講演題目：「 π 電子系分子種の配列制御ー分子周りのデザインー」

講 演 者：竹内正之氏 (物質・材料研究機構グループリーダー)

10月27日(木)

場 所：ウェスティンホテル仙台
グランドボールルーム 雀
(宮城県仙台市青葉区一番町1-9-1)

時 間：12:30~14:50

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

研究所総務課総務掛 052-789-5262

第56回国立大学附置研究所・センター長会議

第1部会シンポジウム

テ ー マ：「震災からの復興に向けて」

講演題目：「東日本大震災と東北大学の新たな挑戦」

講 演 者：井上明久氏 (東北大学総長)

講演題目：「東北地方太平洋沖地震ー大津波と強い揺れの成因を探るー」

講 演 者：古村孝志氏 (東京大学教授)

講演題目：「東日本大震災から学ぶー南海トラフ巨大地震への備えー」

講 演 者：福和伸夫 (環境学研究科教授)



10月28日(金)

場 所：シンポジオンホール

時 間：9:40~17:30

定 員：150名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

経済学研究科

附属国際経済政策研究センター

052-789-4945

国際経済政策研究センター・キタン会

第26回国際学術シンポジウム

テ ー マ：「危機から新たな成長にー世界金融危機・東日本大震災と東アジアー」

内 容：講演、パネルディスカッション

10月28日(金)

場 所：豊田講堂

時 間：13:00~17:30

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

環境学研究科

教授 鈴木康弘 052-747-6448

防災・日本再生シンポジウム

「濃尾地震から120年ーその教訓を振り返るー」

内 容：講演、パネルディスカッション

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月29日(土)～10月30日(日)

場 所：木曾川（岐阜県各務原市、
愛知県犬山市）（10/29）、
博物館（10/30）

時 間：9:30～15:30（10/29）、
10:00～13:30（10/30）

定 員：30名

対 象：小学3年生から中学3年生と
その保護者

参 加 費：1,000円

第3回地球教室

テ ー マ：「河原の石で包丁をつくろう！」

内 容：岩石についてまなび、木曾川の河原で石を採集し、
その石で包丁をつくって料理する



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月5日(土)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール、
環境総合館 4階地域防災交流ホール

時 間：13:20～16:30

対 象：一般

参 加 費：無料

平成23年度「まちとすまいの集い」

テ ー マ：「3.11後のまちとすまい—備えあれば未来あり—」

内 容：講演、展示、地域防災交流ホールの開放



[問い合わせ先]

工学研究科

講師 恒川和久 052-789-4398

11月7日(月)～11月8日(火)

場 所：野依記念物質科学研究館
2階講演室

時 間：13:00～（11/7）、
9:00～15:00（11/8）

第2回統合物質シンポジウム

講 演 者：玉尾皓平氏（理化学研究所基幹研究所長）、
齋藤軍治氏（名城大学総合研究所教授）

[問い合わせ先]

物質科学国際研究センター事務室

052-789-5907

11月12日(土)

場 所：博物館実験室

時 間：13:00～16:00

定 員：20名

対 象：小学5年生以上、一般

参 加 費：50円（保険料）

ミクロの探検隊

テ ー マ：「トリの羽の不思議」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月19日(土)

[記念講演会]

場 所：豊田講堂

時 間：13:00～16:00

対 象：一般

参 加 費：無料

[記念式典]

場 所：シンポジオンホール

時 間：16:30～

対 象：本学関係者および
環境学研究科修了者

環境学研究科

創設10周年記念講演会、式典

講演題目：「未来社会を選択—大震災後のエネルギーと環境—」

講 演 者：浅岡美恵氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク代表）

講演題目：「季語の地球科学—変動帯に生きる—」

講 演 者：尾池和夫氏（財団法人国際高等研究所長）

講演題目：「環境学研究科の10年」

講 演 者：溝口常俊（環境学研究科長）

[問い合わせ先]

環境学研究科

准教授 岩松将一 052-789-4849

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月23日(水)

場 所：博物館講義室
時 間：13:00～15:00 (予定)
参 加 費：無料

博物館コンサート 「古楽サークル定期演奏会」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月26日(土)

場 所：ES 総合館1階 ES ホールおよび
会議室
時 間：13:00～16:15
対 象：愛知・岐阜・三重県の中高生
および保護者、教員
参 加 費：無料

若手女性研究者サイエンスフォーラム 女子中高生理系進学推進セミナー

内 容：講演、ポスターガイダンス、ポスターセッション、総長賞の授与
講演題目：「楽しく仕事をしなきゃ、もったいない」
講 演 者：土井美和子氏（株式会社東芝研究開発センター首席技監）
講演題目：「音を感じる脳の理解に向けてー研究とライブイベントの両立ー」
講 演 者：上川内あづさ（理学研究科教授）

[問い合わせ先]

総務部職員課
男女共同参画担当 052-789-5976

名大トピックス No.221 平成23年10月17日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

2008年ノーベル物理学賞・
化学賞展示室
(平成23年9月14日)



114 第9代総長 はやかわさち お 早川幸男 — 名大をひきいた人びと⑭ —

第9代総長の早川幸男は、1923(大正12)年、現在の愛媛県新居浜市に生まれました。42(昭和17)年に私立武蔵高等学校を卒業し、東京帝国大学(現在の東京大学)理学部に入学しました。

卒業後、中央气象台技官、大阪市立大学理工学部講師、助教授、京都大学基礎物理学研究所教授をへて、59年に名古屋大学理学部物理学科教授に就任しました。担当は、新設された原子核理論講座でした。

早川の学術業績は多岐にわたり、素粒子、原子核、宇宙線、プラズマなどの広範な物理学の分野で多大な業績を上げるとともに、これらの研究を基礎にした新しい宇宙物理学の発展に大きな足跡を残しました。また、宇宙からの観測の重要性を予見し、自ら実験グループを率いて、日本初の宇宙X線のロケット観測に成功しました。その後も、宇宙観測の分野を切り開き、いわゆる宇宙天文学の創始の中心となりました。86年には紫綬褒章、91年には日本学士院

賞を受けています。

理学部長を務めたのち、87年7月に就任した早川総長は、先端技術共同研究センター(現在のエコトピア科学研究所先端技術共同研究施設)、太陽地球環境研究所、年代測定資料研究センター(現在の年代測定総合研究センター)の附置などに尽力しました。とりわけ91(平成3)年に名大初の独立研究科である大学院国際開発研究科を新設したことは特筆されます。また89年、設置以来30年近くの歴史を持つプラズマ研究所が発展的に解消し、文部省核融合科学研究所(現在は大学共同利用機関法人、岐阜県土岐市所在)となったことも大きな出来事でした。

そして89(平成元)年、名古屋大学創立50周年記念式典が挙行され、記念事業の1つとして名古屋大学シンポジオンの建設がはじまりました。しかし早川総長は、その落成直前の92年2月、病気のため他界しました。翌3月には、豊田講堂において大学葬がおこなわれています。



2	3	4
1	5	

- 1964年頃の早川教授(1964年度の物理学科卒業アルバムより)。
- 名大理学部物理学科原子核・宇宙物理研究室の記念写真(1966年度の物理学科卒業記念アルバムより)。左端が早川教授。
- 早川幸男第9代総長(1923-1992)。パイプを愛用し、トレードマークの1つであった。
- タイのチュラロンコン大学代表団を迎える早川総長(1988年)。その後、1992年に大学間協定が結ばれ、現在も続いている。
- 名古屋大学創立五十周年記念祝賀会で挨拶する早川総長(1989年11月9日)。写真からも分かるように、当時はシンポジオンがないため、豊田講堂の前庭にテントを立てて会場とした。